

四 お旅まつりの曳山の口上と拍子木



「風薫る五月。新緑の訪れと共に、毎年小松市では『お旅まつり』が行われます。曳山の子供歌舞伎。その豪華絢爛な歌舞伎の一幕一幕が、見る人を圧倒し、子供達の堂々とした熱演が感動を呼びます。」



かいせつ



お旅まつりは小松市にある本折日吉神社と菟橋神社の春祭りです。毎年5月13日～16日まで開催され、両社の神輿が町内を渡御(旅する)することからその名が付けました。祭りの始まりは江戸時代初期とされていますが、町の人たちがあちこちの祭を見物し、今までにない立派な物を造ろうと曳山を10基建造し、江戸時代中期頃から子供歌舞伎が演じられるようになりました。当時、地元の職人が意匠を凝らして作った曳山は8基が現存し、絢爛豪華な曳山を舞台として数人の少女を中心に、子供歌舞伎が演じられます。祭り一番の見どころである子供歌舞伎は、若連中と呼ばれる青年たちによる勢いのある口上と拍子木によって幕開けが告げられ、大人顔負けの艶っぽい熱演に、毎年街角を埋め尽くした見物客からの喝采が集まります。芝居は期間中10数回上演され、地元の人たちによる浄瑠璃(義太夫)・三味線の音の小松の町を包み込みこむことでしょう。